

染色家、教育者、デザイナー、表現者。
人・柚木沙弥郎を紐解き、
“創造の源泉” その原動力となる
モノを視る力に焦点をあて、
柚木沙弥郎の100年、
そしてつくる喜びに迫ります。

100 Years of Samiro Yunoki
Trajectory of Creation

JAM
JOSHIEI ART MUSEUM

柚木 沙弥郎の 100年

9月17日(土) ▶ 10月17日(月) 2022年

女子美術ミュージアム

開館時間 10:00 ▶ 17:00 (入館は16:30まで) 会期中無休
入館料 500円

高校生以下、未就学児、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方と介助者原則1名は無料
*年齢・身分を確認できるものをお持ちください

主催：女子美術大学、女子美術大学美術館、
女子美術大学デザイン・工芸学科工芸専攻
企画：柚木沙弥郎展実行委員会 企画協力：&4+do
特別協力：日本民藝館、岩立フォーークテキスタイルミュージアム
助成：(公財)野村財団、(公財)朝日新聞文化財団
協賛：株式会社 良品計画
協力：女子美術大学染織文化資源研究所
後援：相模原市、相模原市教育委員会、女子美術大学同窓会

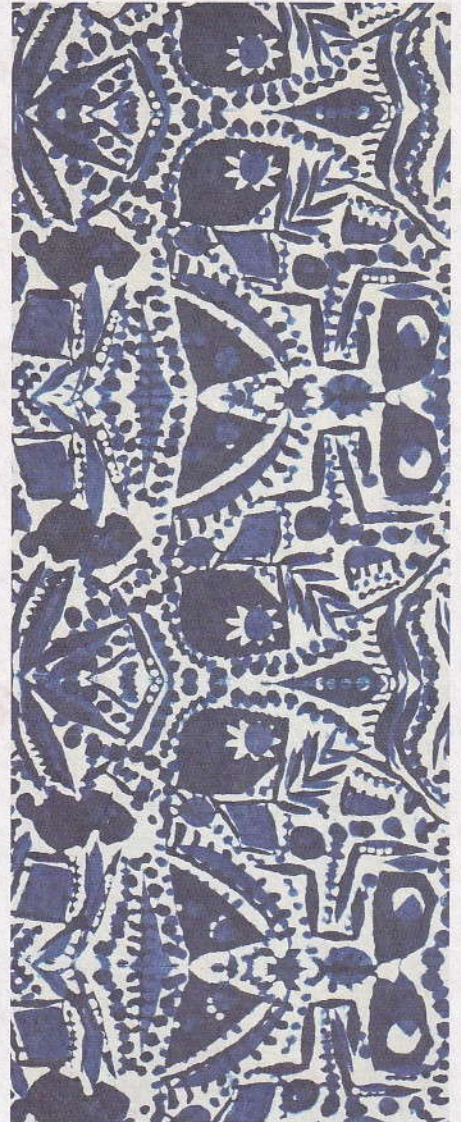
NOMURA 野村財団 株式会社 良品計画 美

創造の軌跡展

創造の軌跡展 柚木沙弥郎の100年

この秋100歳を迎える柚木沙弥郎は、“つくること”が生活の一部であるように、現在も日々制作と向き合っています。「型染」に、独創的な表現を加えた豊潤な色彩による作品は、これまで多くの人々を魅了してきました。80歳を超えてからは、海外で紹介される機会も増え、新たな境地を獲得し「布」から「作品」へ、より自由な飛躍を遂げたアーティストとしての活躍は年齢を感じさせません。

柚木にはもう一つ、教育者としての顔があります。今年で73年を迎える、女子美術大学の工芸科の設立に参画、長きにわたって学生の指導に努めました。そのユニークな教え方により、今も多くの卒業生に慕われています。本展では、柚木沙弥郎の「創作」に加え、女子美術芸において展開された「教育」にもフォーカスをあて、「注染」や「型紙防染」という柚木が得意とした技法や、こだわり続けた素材についてなど、普段取り上げられることの少ないテーマからの構成を試みました。常に学生と共にあった女子美術大学において、柚木作品の魅力をご覧ください。



《たすき文》1969年 注染/木綿 若立アナーケテキスタイルミュージアム蔵

展示内容
注染布、型紙防染布、型紙、絵本原画、スクラップブック、女子美工芸の記録写真など

関連プログラム
映像上映「柚木沙弥郎の100年 — 創造の源泉と女子美工芸の教育」
(2022年制作、約20分)を上映いたします。

会期中は、ギャラリートークや、ワークショップを開催します。
プログラムの詳細、お申し込み方法は当館ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.joshibi.net/museum/>



女子美術大学工芸科での授業 1967年頃



《唐草文布》1990年 型染/木綿 日本民藝館蔵



交通案内
①小田急線 相模大野駅北口3番バス乗場より神奈川中央交通「女子美術大学」行き乗車約20分
※平日・土曜日午前10時前は「グリーンホール前」4番バス乗場より乗車。「グリーンホール前」は、相模大野駅から徒歩5分のところにある市営相模大野立体駐車場1階にあるバス乗り場です。建物表示がないのでご注意ください。
②JR横浜線 古淵駅 2番バス乗場より神奈川中央交通「女子美術大学」行き乗車約15分
※終点「女子美術大学」のバス停をおりて階段をあがり、正門手前の小道を左折。車道に出て右折、100mほど歩くと美術館入口があります。
※車でご来場の方は隣接する市立相模原麻溝公園内の各駐車場をご利用ください。

女子美術ミュージアム
神奈川県相模原市南区麻溝台1900
女子美術大学 相模原キャンパス10号館1階
Tel.042-778-6801 Fax.042-778-6815



新型コロナウイルス感染状況により、開催や会期などを変更する場合があります。ご来館の際には当館ウェブサイトでご確認ください。会場では、作品のほかに映像や資料がありますので、時間に余裕をもってご来館ください。



《水辺文屏風》1995年 型染/麻 二曲一隻 個人蔵



アイデアスケッチ、下絵などのスクラップブック 1980年代ほか 作家蔵